

平成19年 4月 6日

報道機関 各位

東北大学病院

## 神経難病『多発性硬化症』の原因解明に関する情報提供

(説明)

原因不明の神経難病『多発性硬化症』のうち、日本人に多くみられるタイプで、アクアポリン4抗体が、病気の発症に重要な働きをしていることが、東北大学の研究で明らかにされた。今後、多発性硬化症の疾患概念を根本的に覆す新知見であり、治療法の開発にも大きな影響を与えるものと推測される。

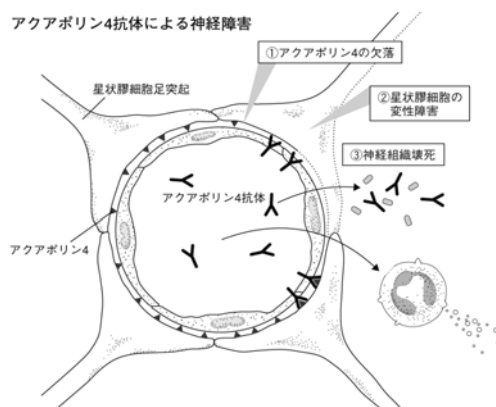
(概要説明)

- ・ 多発性硬化症 (MS) は、神経を被覆する髄鞘に炎症が起こることによって生じる脱髄疾患である。近年、日本人に比較的多くみられる視神経と脊髄を障害するタイプの視神経脊髄型MSにおいて、脳 (特に星状膠細胞の突起) に含まれるアクアポリン4に対する抗体が見つかったが、その病態意義は不明であった。
- ・ 今回、私共の研究で、視神経脊髄型MSの剖検脳の病変部において、アクアポリン4が消失して星状膠細胞が障害されていたが、脱髄変化は軽度であることが分かった。一方、従来の多発性硬化症では、これらの変化は全く認められず、視神経脊髄型MSは、従来の多発性硬化症と異なる病態であることが示された。今後、新たな治療法の開発が急がれる。

(用語解説)

髄鞘 (ずいしょう)・・・神経を覆って神経伝達に重要な役割を持つ。障害されることを脱髄と言う。  
星状膠細胞・・・枝状に足突起を伸ばしアクアポリン4を発現、病的状態で増加し組織修復等に関わる。

(図)



(お問い合わせ先)

東北大学病院

担当 三須建郎、藤原一男、糸山泰人

電話 022-717-7189、022-717-7000